

成分

一、源泉名 下呂温泉

(送湯ポンプ所)

二、泉質 アルカリ性単純温泉

PH 八・九〇

三、泉温 源泉 摂氏 五十五度

使用位置 四十二度

四、温泉の成分

本鉱水1kgに含有する成分及びその分量

成分	ミリグラム	ミリバル	ミリバル%
ナトリウムイオン (Na+)	一一五・八	五・〇四	九五・四五
カリウムイオン (K+)	二・〇	〇・〇五	〇・九五
カルシウムイオン (Ca2+)	三・七	〇・一九	三・六〇
(一)陽イオンの総計	一二一・五	五・二八	一〇〇・〇〇
ふっ化物イオン (F-)	一・〇	〇・五八	一一・二四
塩化物イオン (Cl-)	一〇四・九	二・九六	五七・三六
硫酸イオン (SO42-)	一三・三	〇・二八	五・四三
炭酸水素イオン (HCO3-)	三二・八	〇・五四	一〇・四七
炭酸イオン (CO32-)	二四・〇	〇・八〇	一五・五〇
(二)陰イオンの総計	一八六・〇	五・一六	一〇〇・〇〇
メタけい酸 (H2SiO3)	五七・七	〇・七四	(ミリモル)
メタほう酸 (HBO2)	六・七	〇・一五	(ミリモル)
(三)非解離成分の総計	六四・四	〇・八九	(ミリモル)
溶存物質(ガス性のものを除く)	一・二	〇・三三	〇・三七二
遊離硫化水素 (H2S)	一・一	〇・〇三	(ミリモル)
(四)溶存ガス成分の総計	一・一	〇・〇三	(ミリモル)
成分総計	一・二	〇・三三	〇・三七二
その他の微量成分			g/Kg
マグネシウムイオン (Mg2+)	〇・〇一		
アルミニウムイオン (Al3+)	〇・〇五		
ひ素 (As)	〇・〇六		
マンガンイオン (Mn2+)	〇・〇一		
鉄()イオン (Fe2+)	〇・〇五		

五、温泉の分析年月日

平成十六年十一月五日

六、登録分析機関

岐阜県保健環境研究所

岐阜県第一号

禁忌症及び適応症

一、禁忌症(浴用)

一般的禁忌
急性疾患(特に熱のある場合) 悪性腫瘍
活動性の結核、重い臓病、呼吸不全
腎不全、出血性疾患、高度の貧血
その他一般の病勢進行中の疾患
妊娠中(特に初期と末期)

二、適応症(浴用)

神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、
運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、
くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、
疲労回復、病後回復期、健康増進

三、浴用上の注意事項

ア、温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を一日当たり一回程度とすること。その後は一日当たり二回ないし三回までとすること。

イ、温泉療養のための必要期間は、おおむね二ないし三週間を適当とすること。

ウ、温泉療養開始後おおむね三日ないし一週間前後に湯あたり(湯さわ)り又は浴場反応)が現れることがある。湯あたり(湯さわ)りの間は、入浴回数を減じ又は入浴を中止し、湯あたりの症状の回復を待つこと。

エ、以上のほか、入浴には次の諸点について注意すること。

1、入浴時間は、入浴温度により異なるが初めは三分ないし一〇分程度とし、慣れるにしたがって延長してもよい。

2、入浴中は、運動浴の場合は別として一般には安静を守る。

3、入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さない(湯ただれを起さず)か、温泉成分を拭き取るのがよい。

4、入浴後は湯冷めに注意して一定の安静を守る。

5、次の疾患については、原則として高温浴(四十二度以上)を禁忌とする。
高度の動脈硬化、高血圧症、心臓病

6、熱い温泉に急に入るとめまい等を起こすことがあるので十分注意をする。

7、食事の直前、直後の入浴は避けることが望ましい。

8、飲酒しての入浴は特に注意する。